

2025年6月の読書案内：連載その4①

「認知症世界の歩き方実戦編」：笥 祐介（かけい ゆうすけ） 「思い出のタイムトラベルから、抜け出せるか！」【実戦編 アルキタイヒルズ】

－PART I 対話編：認知症の方が生きる世界を知り、言葉を交わし、関係を深める－

《この世界には、いつの間にかタイムスリップしてしまい、思い出とともにどんどん歩を進めたくなる不思議な街があるのです。

個々を訪れた誰もが「懐かしいなあ」という言葉を口にします。それぞれ忘れたがたい思い出が次々と、ひとりで呼び起こされるのです

「現役揭示だった頃、一晩中張り込みをした記憶」、「絶世の美女と夢のような1日」
昔の記憶があたかも今、起きているように感じられ、夢中で当時と同じ行動をとってしまうのです。》

◆ 思い出を巡るタイムトリップ

(1) 無目的に歩きまわっているように見える理由

【深夜に認知症のある方が徘徊するので困っている】

★家の外に出るには、必ず何らかの理由があります。

⇒「毎朝、出勤する」、「子供を迎えに行く」「夕方買い物行く」

・過去の大切な思い出や長年の習慣に基づいていることが大半です。目的を持っていても、歩いている途中で自分がなぜ外出したのかどこに向かっているのか忘れてしまうことがあります。周りから見ると、あてもなく歩き回っているように見えてしまうのです。

(2) 夕方になると自宅に帰りたくなる理由

★ 昔の記憶が蘇り、今いるところが自宅だとは思えず、帰ろうとしていることが現認の一つと考えられます。

★ 認知症の進行への不安・孤独感・同居者との人間関係からのストレスが「（この家ではない）落ち着くことができる場所にかえりたい」という気持ちを誘発しているということもあります。

*認知症のある方を含め、全ての人にとって、昔の心地よい思い出はかけがえのない財産であり、とても大切なものなのです

◆ 「行動の謎」「推理」「アイデア」については次の「実戦編 二次元銀座商店街」で解説します。

2025年6月の読書案内：連載その4②

「認知症世界の歩き方実戦編」：笥 祐介（かけい ゆうすけ） 「あなたは無事目的地たどりつけるか？」【実戦編 二次元銀座商店街】

《この世界には、何度訪れても必ず迷い、目的地にたどり着く前に必ず寄り道をしてしまう、摩訶不思議な商店街があるのです。

この街では、目の前の風景が平面の絵のように見えるため、「近い」「遠い」と言感覚があまりありません。

そのうえ、歩いていると歩いていると、東西はふいに入れ替わり、案内板の矢印はあらぬ方向を指し、目印にしている建物は突然消えてしまう、カラクリの街……。

この街を歩く人々は、どうやって目的地に着くのでしょうか？》

◆ 絵葉書の世界に迷い込んだら

【方向感覚を失う理由】

★ その原因を探るヒント

①街中や駅で見かける矢印の示す方向がわからない。

その方には上向きの矢印が直進には見えず、2階や空を表しているようにしか見えないようで、混乱してしまい、進めなくなることがあるというのです。

逆Uの字特に混乱を招くようです。

②特に地下のように、東西南北の方向感覚を失いがちな空間にある矢印は混乱を招きます。

③視野が狭くなり曲がり角が目にとまらない、「直進して2本目の角を右」と言われても、見えていない道路や建物を想像できない。街の目印（なじみの店、施設、看板など）を記憶に留められない。

*これら様々な理由により、街中や建物の中が異次元空間に感じられ、迷ってしまうと考えられます。

◆ 歩きたくなる？！集めたくなる？！謎

・歩さんは毎朝、家族に「行ってきます」としっかり挨拶をして玄関を出ていくのです。何度も引き止めましたがその度に「何をするんだ！間に合わないだろう！」と聞き入れません。

・最近はいつものどこかで道に迷い、ご近所やお巡りさんに連れて帰ってきてもらうのです。

そした帰ってきた時はカバンに雑草やら枝やら花やら、植物がぎっしり……。

*この出来事の背景で、歩さんが経験した認知機能のトラブルを推理してみましょう！

◆ 推理

(1) 職場に出勤し、自分の仕事をやり遂げようとしたのでは？

★ 時間感覚のトラブルを抱えている可能性があります。

- ・働き盛りの30代の頃にタイムスリップし、その当時の本人にとって、毎日通勤するのは当然のに日課であり、仕事のために外出しようとしていることが考えられます。
- ・歩さんは、製薬会社の研究開発担当で漢方薬製造に必要な植物の栽培や採取を日課としていたため、この過去の体験が「植物を集める」という行動につながっていたと考えられます。

(2) 歩いている間に、目的地がわからなくなってしまったのでは？

★ 記憶のプロセス、記銘→保持→想起のいずれかの機能にトラブルを抱えたことが理由として考えられます。

- ・家を出る際は、仕事に向かうという明確な糸があったものの、その記憶が歩いているうちに保持されなかった、想起できなくなった可能性があります。

(3) 自宅に戻ろうと思ったが、道に迷ってしまったのでは？

★ 空間のトラブルにより、東西南北や左右、奥行きの感覚が損なわれたことで、道に迷ってしまった可能性があります。

- ・その結果、自宅に戻ることができず、自宅を探し求めて歩き回っていたのかもしれません。

◆ アイデア（トラブルに対するみんなで取り組むことができる具体的アクション）

① ご近所の方や近隣のお店に事前に疾患・症状のことを伝えておく

⇒ご本人が道に迷ったり、怪我をした場合などに頼りになるのはご近所の方です。可能な限り本人の症状を理解してもらっておくことで不測の出来事などを回避することができます。

また、家の周りを散歩し、安全かつ本人が居心地のよい場所やルートを確認しておくことで、道に迷ったときの対応も可能となります。

② 本人と相談して、GPS機器を常に持ち歩く

⇒本人と事前に相談し、同意の上で使用することが大切です。

同意した上で持ち歩くことになると、本人自身が安心して外出できるようにもなります。